

28O-am05

クラリスロマイシンドライシロップとカルボシステイン併用時のコンプライアンスの向上に関する検討

○松尾 律子¹, 田中 祥子¹, 加納 美知子¹, 磯野 喜美子¹, 田中 泰羽¹, 田浦 智子¹, 浅田 由紀¹, 赤嶺 有希子¹, 沢井 一¹, 須藤 智美¹, 木下 正和¹, 三木 晶子², 堀 里子², 大谷 壽一², 澤田 康文^{2,3} (¹財和同会薬局, ²東大院薬, ³東大院情報学環)

【目的】小児の呼吸器感染症では、クラリスロマイシンドライシロップ (CAM-DS) が汎用されているが、酸性薬剤であるカルボシステイン (CC) ドライシロップ (CC-DS) 及び細粒 (CC-Gr) との併用により苦味が増強することが服用上の問題となっている。そこで我々は CAM-DS と CC-DS または CC-Gr 併用時の苦味を緩和しコンプライアンス向上につながる服用方法を検討すべく官能試験を行った。

【方法】健康成人男性 6 名を被検者として、塩酸キニーネ溶液 (0.01-1.0 mM) を標準液とし、各サンプルの苦味を 5 段階 (苦味強度 0-4) にスコア化した。CAM-DS 1g (体重 13.3kg 小児用量) を水 25 mL に懸濁し、その 2 mL を口中に 5 秒間含みその苦味強度を評価し、CAM-DS と CC-DS、CC-Gr またはシロップ剤 (CC-Sy) とを混合した時の各々の苦味強度と比較した。また各種飲料の影響、および CAM-DS 先発品と後発品の苦味や服用感についても比較検討した。

【結果および考察】CAM-DS (先発品) 単剤での平均苦味強度は 0.5 であったが、酸性薬剤である CC-DS 又は CC-Gr (先発品) との混合により pH が低下し、平均苦味強度が各々 3.8 及び 2.0 と有意に増強された ($P < 0.05$)。しかし、CC-Sy (先発品) の混合は、CAM-DS の苦味強度に影響を与えず、pH も弱塩基性に維持されていた。また、牛乳やココアは、CC-DS と CC-DS/Gr の混合による苦味を軽減できた。したがって、CAM-DS と CC を併用する際は、CC 製剤としてシロップ剤を選択 (疑義変更) することがコンプライアンスの向上につながると考えられる。また牛乳やココアも苦味の軽減に効果があることが判明した。